



事業評価監視委員会の意見	
対応方針（原案）の事業継続は妥当である。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
・平成24年度新規事業化、用地進捗率64%、事業進捗率81%（令和3年3月末時点）	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
・事業の進捗に係る問題はない。	
施設の構造や工法の変更等	
・機能補償のボックスカルバートを集約化しコスト縮減を図っている。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
事故減少、災害時の信頼性、救急医療支援、地域産業・物流支援、観光地域交流支援、企業立地支援等のため、早期整備の必要性が高い。	
事業概要図	
<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— : 開通済</li> <li>⋯ : 事業中</li> </ul> <p>その他道路凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>— : 道路種別</li> <li>— : 評価対象区間</li> <li>— : 高規格幹線道路</li> <li>— : 一般国道</li> <li>— : 主要地方道・県道</li> </ul> <p>● : 市役所</p> <p>● : H27センサス交通量</p> <p>交通量データ:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>能代東IC: T'15=9,200台/日</li> <li>二ツ井白神IC: T'15=11,500台/日</li> <li>小梨IC(仮): T'15=16,500台/日</li> <li>今泉IC(仮): T'15=19,800台/日</li> </ul>	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。